



TITLE:

表紙・原稿作成要領・編集後記・  
裏表紙ほか

AUTHOR(S):

---

CITATION:

表紙・原稿作成要領・編集後記・裏表紙ほか. 物性研究 2001, 76(2):  
296-297

ISSUE DATE:

2001-05-20

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/96981>

RIGHT:

昭和42年11月14日 第四種郵便物認可  
平成13年5月20日発行(毎月1回 20日発行)  
物 性 研 究 第76巻 第2号

ISSN 0525-2997

**vol.76      no.2**

# 物性研究

**2001 / 5**

1. 本誌は、物性の研究を共同で促進するため、研究者がその研究・意見を自由に発表し、討論しあい、また、研究に関連した情報を交換しあうことを目的として、毎月1回編集・刊行されます。掲載内容は、研究論文、研究会・国際会議などの報告、講義ノート、研究に関連した諸問題についての意見などです。
2. 本誌に投稿された論文については、原則として審査は行いません。但し、編集委員会で本誌への掲載が不適当と判断された場合には、改訂を求めること、または掲載をお断りすることがあります。
3. 「物性研究」に掲載される論文の著作権は、物性研究刊行会に帰属することとします。但し、著者が著作物を使用することをさまたげるものではありません。
4. 本誌の論文を欧文の論文中で引用する時には、Bussei Kenkyu (Kyoto) **76** (2001), 1. のように引用して下さい。

#### [原稿作成要領]

1. 原稿は、原則として日本語に限ります。
2. 投稿原稿は2部提出して下さい。但し、研究会報告は1部で結構です。
3. 別刷を希望の場合は、投稿の際に、50部以上10部単位で、注文部数・別刷送付先・請求先を明記の上、お申し込み下さい。別刷代金については、刊行会までお問い合わせ下さい。
4. ワープロ原稿を歓迎します。原則として写真製版でそのまま印刷されますので、以下の点に注意して原稿を作成して下さい。
  - 1) 用紙はA4を縦に使用。(印刷はB5になります。縮小率86%)
  - 2) マージンは、上下各約3cm、左右各約2.5cm。1ページに本文34行、1行に全角文字で42字程度にして下さい。
  - 3) 第1ページは、タイトルはセンタリング、所属・氏名は右寄せにして、本文との間に受理日を入れるので、余白を少しあけて下さい。
  - 4) 図や表は本文中の該当箇所に貼り込み、図の下にキャプションを付けて下さい。
  - 5) 体裁については、上記は一応の目安ですので、多少の違いがあってもかまいません。
5. 研究会報告の作成要領については、物性研究ホームページをご覧ください。か、刊行会までお問い合わせ下さい。

〒606-8502 京都市左京区北白川追分町  
京都大学 湯川記念館内  
物性研究刊行会

Tel. (075)722-3540, 753-7051

Fax. (075)722-6339

E-mail busseied@yukawa.kyoto-u.ac.jp

URL <http://www2.yukawa.kyoto-u.ac.jp/~busseied/>

## 掲 示 板

### ★「博士論文」のアブストラクトおよびリンク募集★

物性分野の研究は多岐にわたり、専門性はともすれば視野を広げる障壁にもなっていると思います。「日本物理学会誌」・「応用物理」・「固体物理」・「物性研究」などでは、専門分野内外の疎通や新しく研究しようとする人々の案内に供すべく、種々の解説記事が掲載されています。他方、毎年提出される博士論文のなかにも、基礎から先端の実際までを一貫した視点でまとめた、すぐれた解説記事に値するものが多々あると思います。

「物性研究」では大部な博士論文を全編掲載することはできませんが、どのような博士論文があり、どこでそれらを参照できるかといった情報を「物性研究」ホームページ上で提供することができればと考えました。そこで、a. 博士論文のタイトル／アブストラクト、および、可能ならば、b. 博士論文のあるホームページのリンク情報を以下の要領で募集します。また、異動等によって現在属している機関のサーバに博士論文本体を保持する事が困難な場合は、c. 博士論文本体の保管も（試験的にですが）受け付けております。

1. この春を含め過去数年以内に博士学位審査を通過した物性分野の博士論文を対象とします。
2. 募集は随時行います。タイトル／アブストラクト、リンク情報に対して審査は原則的にありません。
3. 原稿の言語は問いません。
4. 各募集事項に対して必要な項目は以下の通りです。
  - a. 博士論文のタイトル／アブストラクト  
 {氏名, 所属, 審査年, 博士論文タイトル, 同アブストラクト} のデータをテキストファイル形式でEメールでお送りください。
  - b. 博士論文のあるホームページのリンク情報  
 a. の5項目に加えて、{自分のホームページの URL, 博士論文の URL, 所属機関の URL, メールアドレス} をテキストファイル形式でEメールでお送りください。
  - c. 博士論文本体  
 a. の5項目に加えて、博士論文本体のファイルをお送りください。博士論文本体の公開用のファイルの形式、圧縮方法等は問いません。データを添付ファイルか uufile にしてEメールで送るか、FD (DOS/Vフォーマット) または CD-Rで郵送してください。
5. 博士論文本体を当ホームページにて公表するためには、著者が「物性研究」が主張する著作権（「物性研究」に掲載される論文の著作権は、物性研究刊行会に帰属することとします。但し、著者が著作物を使用することを妨げるものではありません。）を了承している事、該当論文を「物性研究」を通じて公表することに関して関係機関の了承を得ている事が必要です。ファイルの形式、圧縮方法等は問いませんが、内容、形式、伸長方法に関する問い合わせがあった場合は著者へ回送します。また、データの大きさ、内容等によって掲載をお断りする場合がありますので、あらかじめ御了承下さい。
6. これらの情報は、<http://www2.yukawa.kyoto-u.ac.jp/~busseied> に随時、掲載・公表されます。

[問合せ & 送付先] 物 性 研 究 刊 行 会

Tel: (075)722-3540, 753-7051

Fax: (075)722-6339

E-mail: [busseied@yukawa.kyoto-u.ac.jp](mailto:busseied@yukawa.kyoto-u.ac.jp)

## 編集後記

木々の緑がまばゆい季節となり、キャンパスにも新入生が溢れています。4、5年前と比較して目につくのは、やはり色んなところで学生さんが携帯電話を持って話をしている光景でしょうか。小生の場合、京大の中にいると全く必要性を感じない、いやむしろ居留守を使えないなど逆に不便だと思い、研究室の中で異端児扱いをされながらも、ずっと持っていませんでした。

ところが先日、千葉の柏市に移転した東大物性研や、東海村の日本原子力研究所で共同利用する機会があり、改めて敷地の広さに感嘆(?)するとともに(特に原研での共同利用で一番最初にしたことは、事務に行って敷地内用の自転車を借りることでした)、公衆電話が全く見当たらず非常に困りました。物性研で聞いた話では、最近ほとんどの人が携帯を持っており、採算がとれないのでNTTが公衆電話をおかないのだとか。むしろ、ほとんどの人が携帯を持っていることを利用して、装置の準備、測定を終了などを携帯に知らせるようにしている研究室もあると聞きました。

これを便利なことだと思うかどうかは人それぞれだと思いますが、そういう情報機器が無くてそのような事をやりたくてもできなかった時に比べると、やはり格段の進歩なのでしょう。そうでなければ、今日に見られるような爆発的な普及というものは無かったのかも知れません。

しかしながら、大勢の人が携帯を持つようになって、人と人とのコミュニケーションはより良くなったのでしょうか。確かに情報をやり取りする回数は増えているのですが、人と人とのつながりがむしろ希薄になっているような気がしてなりません。研究室の学生さんを見ても、いつでも連絡がとれるという気分があるのか、必要最小限のことは携帯やメールで連絡をしても、普段の雑談はあまりしなくなっているようです。携帯をお互い持っているということで、一見つながっているようにみえて、実は人間的な付き合いがなくうわべだけの会話で終わっている場合が案外多いのではないのでしょうか。極端な例かも知れませんが、出会い系サイトなるもので人付き合いの仮想と現実の区別もつかず、それどころか殺人事件に発展してしまうなど、幾度となく新聞やテレビで目にします。何号か前の小欄に飲み屋にあまり学生さんが来ないという話がありましたが、酒を飲んで皆で一つ的话题に喧々諤々という光景が少なくなっているのは、単に若い人の好みの問題だけなのでしょう。手軽さ・便利さによって血の通ったコミュニケーションが駆逐されてはいないのでしょうか。小生の世迷い言であればよいのですが。

(M. K.)

## [物性研究]

### 編集長

早川 尚男 (京大・人環)

### 編集委員

池田 浩章 (京大・理・物理)  
佐々木 豊 (京大・理・物理)  
藤本 聡 (京大・理・物理)  
水口 毅 (京大・理・物理)  
加藤 将樹 (京大・理・化学)  
森成 隆夫 (京大・基研)  
大木谷 耕司 (京大・数研)

### 各地編集委員

飯間 信 (北大・電子研)  
早川 美德 (東北大・理・物理)  
佐々 真一 (東大・教養・基礎科第一)  
堀田 貴嗣 (原研・先端研)  
出口 哲生 (お茶の水大・理・物理)  
永井 寛之 (信州大・理・物理)  
平田 文男 (分子科学研)  
倭 剛久 (名大・理・物理)  
池田 研介 (立命館大・理工・物理)  
関本 謙 (京大・基研／在フランス)  
菊池 誠 (阪大・理・物理)  
市岡 優典 (岡大・理・物理)  
吉森 明 (九大・理・物理)

E-mail: busseied@yukawa.kyoto-u.ac.jp

URL: <http://www2.yukawa.kyoto-u.ac.jp/~busseied/>

---

物 性 研 究 第 76 卷 第 2 号 (平成 13 年 5 月号) 2001 年 5 月 20 日 発行

発行人 関 本 謙

〒606-8502 京都市左京区北白川追分町  
京都大学湯川記念館内

印刷所 昭和企業組合  
昭和堂印刷所

〒606-8225 京都市百万遍交差点上ル東側  
TEL (075) 721-4541~3

発行所 物性研究刊行会

〒606-8502 京都市左京区北白川追分町  
京都大学湯川記念館内

年額 19,200円

---

## [物性研究]

### 編集長

早川 尚男 (京大・人環)

### 編集委員

池田 浩章 (京大・理・物理)  
佐々木 豊 (京大・理・物理)  
藤本 聡 (京大・理・物理)  
水口 毅 (京大・理・物理)  
加藤 将樹 (京大・理・化学)  
森成 隆夫 (京大・基研)  
大木谷 耕司 (京大・数研)

### 各地編集委員

飯間 信 (北大・電子研)  
早川 美德 (東北大・理・物理)  
佐々 真一 (東大・教養・基礎科第一)  
堀田 貴嗣 (原研・先端研)  
出口 哲生 (お茶の水大・理・物理)  
永井 寛之 (信州大・理・物理)  
平田 文男 (分子科学研)  
倭 剛久 (名大・理・物理)  
池田 研介 (立命館大・理工・物理)  
関本 謙 (京大・基研／在フランス)  
菊池 誠 (阪大・理・物理)  
市岡 優典 (岡大・理・物理)  
吉森 明 (九大・理・物理)

E-mail: busseied@yukawa.kyoto-u.ac.jp

URL: <http://www2.yukawa.kyoto-u.ac.jp/~busseied/>

---

物 性 研 究 第 76 卷 第 2 号 (平成 13 年 5 月号) 2001 年 5 月 20 日 発行

発行人 関 本 謙

〒606-8502 京都市左京区北白川追分町  
京都大学湯川記念館内

印刷所 昭和企業組合  
昭和堂印刷所

〒606-8225 京都市百万遍交差点上ル東側  
TEL (075) 721-4541~3

発行所 物性研究刊行会

〒606-8502 京都市左京区北白川追分町  
京都大学湯川記念館内

年額 19,200円

---

## 会員規定

### 個人会員

#### 1. 会 費：

当会の会費は前納制になっています。したがって、3月末までに次年度分の会費をお振込み下さい。

**年会費 9,600円**

1st Volume (4月号～9月号)

2nd Volume (10月号～3月号)

振替用紙は毎年2月号にとじ込んであります。振替用紙が必要な場合は、下記までご請求下さい。郵便局の用紙でも結構です。通信欄に送金内容を必ず明記して下さい。

郵便振替口座 京都 01010-6-5312

#### 2. 送本中止の場合：

送本の中止は年度の切れ目しかできません。次の年度より送本中止を希望される場合、できるだけ早めにご連絡下さい。中止の連絡のない限り、送本は自動的に継続されますのでご注意下さい。

#### 3. 送本先変更の場合：

住所、勤務先の変更などにより、送本先が変わる場合は、すぐにご連絡下さい。

#### 4. 会費滞納の場合：

正当な理由なく1年以上の会費を滞納された場合は、送本を停止することがありますので、ご注意下さい。

### 機関会員

#### 1. 会 費：

学校、研究所等の入会、及び個人でも公費払いのときは機関会員とみなし、**年会費 19,200円**です。学校、研究所の会費の支払いは、後払いでも結構です。申し込み時に、支払いに書類（請求、見積、納品書）が各何通必要かをお知らせ下さい。当会の請求書類で支払いができない場合は、貴校、貴研究所の請求書類をご送付下さい。

#### 2. 送本中止の場合：

送本の中止は年度の切れ目しかできません。次の年度より送本中止を希望される場合、できるだけ早めにご連絡下さい。中止の連絡のない限り、送本は自動的に継続されますのでご注意下さい。

**雑誌未着の場合：発行日より6ヶ月以内に下記までご連絡下さい。**

## 物 性 研 究 刊 行 会

〒606-8502 京都市左京区北白川追分町 京都大学湯川記念館内

電話 (075)722-3540, 753-7051

FAX (075)722-6339

E-mail busseied@yukawa.kyoto-u.ac.jp



物 性 研 究 76-2 (5月号) 目 次

○研究会報告	
「摩擦の物理」.....	157
○掲示板.....	296
○編集後記.....	297

物 性 研 究 76-2 (5月号) 目 次

○研究会報告	
「摩擦の物理」.....	157
○掲示板.....	296
○編集後記.....	297